

令和5年度学校評価 自己評価書

具体目標→◎…達成、○…ほぼ達成、●…未達成

令和5年所見→□…達成、■…未達成

対象	重点項目	具体目標	令和5年度末	
			令和5年所見	改善策(今後の取組)
総合評価	(前表に掲載)		5つの経営の基本方針を大切にしながら、学校経営を推進してきた。まず、①の「授業を中心に教育活動全体を通して、教育目標の具現化に努める」については、すべての教育活動は3つの学校教育目標の達成のために計画されている。それぞれの職員がすべての教育活動の目的・目標を意識し、児童にも伝えながら実践していた。特に、中心となる授業では、田富スタンダードに沿って、その授業のゴールを明確にし、みんなで課題解決に取り組む児童の姿が見られた。また、様々な行事においても、目的に沿った取り組みを準備し、連携しながら指導・支援を行うことができていた。よって、これらの教育活動のすべてが、3つの学校教育目標の具現化に繋がっていたと言える。②の『『子どものために』を基本とし、全職員の共通理解のもと、組織として一貫した指導に努める』については、子どものために必要な指導・支援を明確にしながら、指導に当たってきた。働き方改革の観点から職員会議や打ち合わせのスリム化を推進しながらも、児童に関する重要な事項については、できる限り共通理解を図るよう努めてきた。大きなトラブルに繋がるミスはなかったが、共通理解が十分でない点もあった。共通理解の手段を見直す必要があると考える。③の「適切な児童理解と受容的・共感的態度に基づく指導に努める」については、学校評価アンケートの「先生方はあなたのことを、よくわかってくれていると思いますか」という質問に対し、肯定的な回答をした児童は92.0%、保護者は97.0%であった。このことから、職員が日頃から児童理解に努め、児童と良好な関係性を築くことができており、その成果が数値として表れていると考える。今後も受容的・共感的態度に基づいた指導とはどういう指導なのか掘り下げながら児童理解に努めていく必要がある。④の『『まごころ』をもち、児童・保護者・地域とともにある信頼される学校づくりに努める』についても、児童・保護者の学校評価アンケート結果を見ると、肯定的な数値の値が高く、信頼を得ることができていると考える。保護者には日頃より連絡を密に取り合い、誠実に対応していることで、信頼を得ることに繋がっていると考え。また、地域にもCSの取り組みを核として、コロナ渦ではできなかったことができるようになってきており、今後も地域との連携を図ることが求められていると考える。⑤「子どもも教職員も育つ学校づくりに努める」については、アンケート結果を見ると授業に関しての項目が児童・保護者・教職員のいずれも肯定的な回答が90%を越えている。さらに行事に関しての項目は95%を上回っている。また、教職員は校内研究等を通して、お互いの授業を観察しながら、それぞれが自身の授業改善に意欲的に取り組んでいる。このようなことから子どもも教職員も育つ学校づくりを推進できていると考える。	①の「授業を中心に教育活動全体を通して、教育目標の具現化に努める」については、今後もすべての教育活動が教育目標を達成させるための手段であり、今行おうとしている教育活動が、教育目標のどの項目の具現化に繋がるのかを明確にしながら企画・運営を心がけていきたい。また、「田富スタンダード」のより確実な推進を校内研究を軸に行っていく。②の『『子どものために』を基本とし、全職員の共通理解のもと、組織として一貫した指導に努める』については、すべての教育活動が本当に子どものためになっているのかを常に見直しながら企画運営していく。その際に、子どものためにという思いを大切にしながらも、すべて前年度の踏襲ではなく、より効率よく成果を得るにはという観点も同時に検討しながら、すべての教育活動をブラッシュアップしていく。また、今後も働き方改革の観点から職員会議や打ち合わせのスリム化を推進しつつ、効率のよい共通理解の図り方を検討していく必要がある。連絡程度で済む情報は、ICTを活用し、1日の始めに必要な情報を確認できるシステムを構築していきたい。③の「適切な児童理解と受容的・共感的態度に基づく指導に努める」については、一人一人の児童理解はQ-Uやアンケートを活用しながらこれまでのように努めていくが、中でも特に支援が必要な児童については、ケース会議等を開き、指導の方向性を検討し、関係機関とも連携してチームで対応していく。④の『『まごころ』をもち、児童・保護者・地域とともにある信頼される学校づくりに努める』については、今後も迅速・誠実・丁寧に対応を適切に行っていく。また、学校の様子を伝える工夫をブログによる情報発信等を継続しながら、今後も検討していく。さらに、学校運営協議会の委員の方々と協力し、地域の教育力を積極的に活用する等、地域との連携を継続・強化していく。⑤「子どもも教職員も育つ学校づくりに努める」については、特に教職員同士で学び合える体制を今後も継続していく必要がある。お互いの授業を参観し、授業を通して学び、自己の授業改善につなげる活動を今後も推進していく。また、教職員が自己のキャリアステージにおいて必要となる資質能力を身につけるために自発的な形で、学校外での研修に参加できる体制も構築していく。

社会 を 生 き 抜 く (生)	1	自立の 基礎を 培う	○目標をもって学校生活を送り、振り返りにより自己の成長や新たな目標に気づく子どもの育成。	□児童の「あなたは、目標をもって学校生活を送っていますか」という項目においては91%、教師の「児童は目標をもって学校生活を送っていますか」において98.0%の達成率であり、教師も児童も目標をもって取り組めていることがわかる。 ■職員アンケートの「つなげる日記を計画的に書かせていますか」という問いに、肯定的な回答をした職員は81%であり、昨年度比12ポイントダウンした。	◇来年度も、集会や授業等の各教育活動の場面においてゴールを意識させた取組を継続していく。児童会による整列、評価、次回の目標提示により、児童が主体的に式や会に参加することができた。本校の伝統となりつつある。 ◆忙しい毎日の取り組みではあるが、計画的に取り組めているクラスが多くみられる。今回、「わからない」という項目を入れたことで、選択に悩んだ教員がいると思われ、来年に向けて積極的に声をかけていこうと思う。
社会 を 生 き 抜 く (生)	1	自立の 基礎を 培う	○基本的な生活習慣を身に付けた子どもの育成。 ○自分の命を守ることができる子どもの育成。 ○みんなのために働くことのできる子どもの育成。	□ノーテレビ・ノーゲームの取り組みを学期に1回実施し、その結果を集計すると、長期休暇や休日でも2時間以上になってしまう児童の割合は、1日目は10%、2回目は17%となり、いずれも目標の20%未満を達成することができた。(3回目はこれから集計をする)今年度は、教育を語る会において、保護者・教職員を対象にしたネット依存やゲーム依存の危険性について学ぶ機会を設定した。参加した保護者の感想を見ると、ネット依存・ゲーム依存の危険性に対する意識はかなり向上したと言える。 ■保護者へのアンケート調査の結果、ヘルメットの着用率は84.4%、所有率は86.3%となった。目標の90%以上は達成できなかったが、着用率を昨年の70%から10%向上させることができ、日頃の啓発活動による一定の成果を出せたことはよかった。また、自転車保険の加入率は81.3%であった。今後も便りなどで、ヘルメット着用や自転車保険加入の必要性を伝えていきたい。 ■学校評価の児童アンケート「校内をきれいにしよう」と取り組んでいるか」の問に対し、肯定的な回答は92.8%となった。高学年が98.0%、低学年が87.5%であった。目標の98%は達成できなかったものの、依然として高い達成率を維持してきたと言える。学級での普段の丁寧な指導や児童会のSTKZ(S:静かに、T:丁寧に、K:協力して、Z:時間を守る)の取組が、浸透していたことが分かる。また、児童会活動の取り組みで、縦割り清掃を通じて異学年と一緒に清掃する活動ができたのも良かった。今後も継続した取組に努めていきたい。 ■学校評価の児童アンケート「委員会活動は、充実した活動になっていると思いますか」という問に対し、肯定的な回答は87.6%となった。目標の95%を超えることができなかった。また、「分からない」と回答した児童が9.8%であり、充実していた、していなかったのどちらにも当てはまらないと思われる児童がいたと考えられる。来年度は、さらに充実させられるように取り組んでいきたい。 ■学校評価の児童アンケート「クラスのために当番活動や係活動に取り組むことができたか」の問に対し、肯定的な回答は93.1%となった。目標の95%をほぼ達成することができなかった。内訳は、高学年が97.4%、低学年が88.8%であった。担任による学級指導や、清掃場所の担当教員などで、子供たちに自分たちの活動としてさらに意識できるようにしていきたい。	◆年度はじめのPTA総会の折に、「ゲームとスマホの田富小の基本ルール」と、PTA全体で取り組むことを伝え、保護者の意識の向上を図る。年に3回、定期的に実態調査を行いその結果を保護者に報告する。また、目標が守れない児童には、学級担任より該当児童に指導したり、個別懇談等の機会に保護者に改善を促したりしていく。 ◆実態調査を行い、自転車乗車時の児童のヘルメット着用と、保護者の自転車保険加入についての意識の向上を図る。そしてその結果に基づいた指導を行う。低学年における指導や取組を重点的に行う。 ◆関係機関の指導者を招聘し、3学年にて自転車の安全教室を実施する。 ◆学級指導だけでなく、児童会活動とともに取り組む。年度当初の職員会議で掃除のやり方を確認する。さらに清掃について、縦わり班を活用した清掃活動や、掃除に関する学級会での話し合い、道徳の授業で、勤労・公共の価値項目で取り上げる等、意識を改善していく。 ◆各担当を中心に児童会活動や委員会活動の目的や学校教育目標とのつながりを確認し指導に当たる。児童が1年間の目標や活動内容を話し合い、主体的に取り組めるようにする。また、定期的に活動を振り返り、意欲が保たれるようにする。 ◆学級会等の時間を使って当番活動と係活動の違いを確認し、指導に当たる。

確かな学力 (生)	2	聞いて考え、語り合う子を育てる	○話している人を見て、考えながら最後まで聞くことができる子どもの育成。 ◎聞いて考えたことを語り合い、学びを広げたり深めたりすることができる子どもの育成。	■2学期終了時点で、「あゆみ」の「生活のようす」の「落ち着いて人の話を聞くことができる。」の評価が「◎○」の児童は、87.7%であった。目標は90%以上であったので、目標は達成できなかった、また、昨年度と比べると2.5%ほど減少した。ただし、1学期の結果では90%を達成していた。それを踏まえた原因として、各学級において聞き方についてのめあての確認をしたり、振り返りをしたりの活動が、年間を通して継続的にできていなかった結果だと思われる。 □学校評価の児童アンケート「あなたは学校の学習を通して、友達と意見交換をしながら、自分の考えをまとめることができるようになってきたと感ずることがあります。」の質問項目に対し、肯定的な回答は92%であった。目標の90%は達成されたが、その原因としては、各学級での話し合いが積極的に行われ、子どもたち同士が考えを交流し合うことで、学びを広げたり、深めたりすることができた結果であるということが考えられる。	◆子どもの発言がにつながる授業を心掛ける。また、「よい聞き方カード」を使って「話している人を見ていたか」「最後まで聞いたか」「考えながら聞いたか」などを授業の中で振り返らせ、継続的に指導する。 ◆児童が考えをもつ時間を保障する。ホワイトボードやICT機器などを活用し、ポイントを絞って説明できるようにする。 ◆授業中、小グループでの話し合いを取り入れる。少人数により話したり聞いたりする機会を保障し、注意深く聞く態度を育てる。 ◆今年度は、校内研で意見交換の部分でどのように指導していけばよいか教員同士の共通認識ができた。来年度からも、それを意識した授業づくりを進めていく。
	3	読む子を育てる	●本が好きな子どもの育成。 ○音読したり暗唱したりすることを楽しむ子どもの育成。	■うちどくカレンダーに月の半分以上○が付く児童の目標を60%に設定した。読書週間の月の達成率は全校平均が60%に近付いたが、昨年より目標を下回る月が多くあった。全体の3割のクラスがほぼ毎月達成していて、読書が習慣化してきていることが分かった。これは、長年根気強く取組続けてきた成果だと感じている。クラス間のばらつきと読書週間以外の月や長期休業中の達成率の差が課題である。高達成率だったクラスでは、身近な大人が関わっていることが分かった。家庭の読書への関心向上の取り組みを継続し、全校の達成率60%を目指したい。 ■音読カードや暗唱カードを活用し、名詩名文や物語などの暗唱に積極的に取り組んだ。学校評価の児童アンケートによる「1学期、2学期に、それぞれ1つ以上の詩や物語を暗唱することができましたか」という問いに、肯定的な回答は84.0%であった。	◆「ミニミニ読書週間」「私の好きな名詩・名句紹介」を実施する。「うちどくカレンダー集計表」などをもとに分析し、学級毎の対策を考え実施する。家庭の読書関心向上の為、うちどくコメントの図書だよりへの掲載、親子読書保護者からのおすすめ本掲載、うちどくパーフェクト賞児童の奨励をする。また、個々の児童の読書力や読解力を伸ばすためにも国語の単元毎の読み聞かせや並行読書の推進にも努めたい。 ●児童が暗唱しなくなるような名詩名文の提示や授業内容と関連させた取り組みを、さらに進めていく。また、授業での取り組みの他に、年間を通して、朝活動や朝の会の時間に自主的に取り組むことができるような場をつ
	4	確かな学力を支える授業づくり	○毎時間ごとのめあての達成に向けて、自ら問いをもち、仲間とともに学び合う授業の実施。	■学校評価の児童アンケート「あなたは、学校の学習を通して、自分の意見を持てるようになってきたと感ずることがあります。」の問いに対して肯定的な回答は86%となった。目標の90%は達成できなかったが、高い達成率となった。どの学級でも田富スタンダードに沿った授業を行い自ら問いをもち、仲間とともに学び合う授業を実施してきたことが結果に表れたと思われる。 □学校評価の児童アンケート「あなたは、学校の学習を通して、友だちと意見交換をしながら、自分の考えをまとめることができるようになってきたと感ずることがあります。」の問いに対して肯定的な回答は92%となった。目標の90%を達成することができた。個別最適な学びの視点に立った授業が行われてきたことにより意見交換をする機会が増えたことが結果に表れたと思われる。今後も継続した取組に努めていきたい。	◆今後も全教員で田富スタンダードに沿って、授業のゴール、課題、まとめを提示した授業を続けていく。そのためにも新年度の早い段階で共通確認することを考えていく。 ◆学力検査の分析や学力向上委員会の開催を通じて、担任から児童の様子を共通確認することで、支援体制の構築につながった。今後も担任だけでなく学校全体で児童の指導に当たる。 ◆個別最適な学びについては、今年度の校内研究だけに留めず、各教員が必要に応じて今後も活用していく姿勢をもち続けていくことが重要だと考える。 ◆今まで通り、今後も校内研究のみならず、日々の教育活動の中で、教員間で授業についてもコミュニケーションをとり合い、学び合いながら、授業改善に生かしていく。

5	自ら学ぶ子を育てる	○進んで家庭学習に取り組む子どもの育成。	■家庭学習に取り組む時間について、達成目標値を85%以上と設定した。全校平均値は77.4%であった。昨年度の83.1%と比べると、達成率は下がっている。低学年は76.4%、中学年は83.2%、高学年は71.6%の達成率であった。学級によって達成率のばらつきが見られたので、児童が取り組む時間を意識して学習できているかどうかを、各学級で考えていかなければならない。 □「やってみるじゃんノート」の取り組み量の達成目標値を80%以上と設定した。全校平均が85.0%であり、目標を達成した。低学年88.8%、中学年82.5%、高学年が82.6%であり、どの学年でも目標値を達成率した。昨年度の反省から、今年度は、すべての児童がその子に合った方法で家庭学習に取り組むことができるよう、よりきめ細かな支援を行った成果が表れたと考えられる。	◆取り組み時間について、職員全体で目標や支援方法を共有していく。 ◆引き続き「家庭学習力の様子」カードを用いて、自身の家庭学習についての振り返りを行い、次への目標をもてるようにする。また、保護者に家庭学習の大切さを伝え、児童の取り組みの様子を共有していくことも継続していく。 ◆2学期末の段階で目標を達成できていない児童には、学習内容や学習方法について個別に支援していく。 ◆児童の自主性に任せるだけでなく、意識的に「やってみるじゃんノート」への取り組みを仕組むことが必要である。低学年の段階で習慣化し、さらに中、高学年で自主的な取り組みにつなげていくことができるよう、系統的な働きかけが必要である。
6	心の居場所と支え合う学校生活	○安心して楽しい学校生活を送り、気持ちよく活動できる学校作りと支援体制の確立。	□学校評価の児童アンケート「学校が楽しいか」の問いに対し、否定的な回答は3%だった。5%未満にするという目標は、達成された。コロナ渦で中止となってきた学校行事が復活するなど人との距離感も近くなり、活動の幅が広がったことで「楽しい」と感じる機会が増えたことが要因と考えられる。また、一人一人の気持ちを把握し、個々に聞き取るなどして、いじめの解消、学級づくり、保護者へのきめ細かい連絡等に努めてきた成果だと考える。 ■学校評価の児童アンケート「何かあったら先生に話しているか」の問いに対し、肯定的な回答は84%だった。目標の90%には届いていないが、子ども達の気持ちに寄り添い、よく話を聞き、つながりを深める地道な取り組みの成果だと考えられる。	◆来年も学期に1回「生活アンケート」を実施し、いじめの早期発見・対応に努める。 ◆年間2回のQUの結果を学年で分析し、ルールと信頼関係に基づく学級づくりに努める。 ◆職員会議や校内委員会で情報を共有し、全校体制で指導に当たる。 ◆互いに認め合い、自己肯定感を高める取り組みを各学級で実施する。担任は児童の行動を価値付け、全体に広げる。 ◆言葉で気持ちを伝えたり助けを求めたりできるようにする。相手を傷付けるような言動は見逃さず、その場で指導する。また、学級活動や道徳の授業、校外学習における事前指導等で継続的に指導を行う。

豊かな心 (信) (命)	7	地域とつながるあいさつの活動	●学校・家庭・地域で、あいさつができる子どもの育成。 ■学校評価項目の保護者アンケート「あなたのお子さんは、あいさつがよくできていると思うか。」という問いに対し、肯定的な回答が全体の830%であり、昨年度の肯定的な回答85.4%に比べ、若干減少している。一方、児童アンケート「あなたは、あいさつが良くできていると思いますか。」という問いでは、肯定的な回答が85.0% (昨年度95.5%) であり、昨年度に比べて減少していることが分かる。児童会のあいさつ活動に取り組む時期が遅くなったことが数値が下がった原因の1つであると考え。学級や登校班指導の際に声掛けを行うことも今後促していきたい。 ■今年度、児童会活動の3つの柱の1つに「友だちを思いやり、心がつながる学校」を掲げ、あいさつ名人を増やしていこうと取り組みを考えてきた。地域の見守り隊の方から「あいさつを返してくれない」という声があがったこともあったので、3学期の活動としてあいさつを校内地域に広げていけるような活動を考えていきたい。	◆児童会を中心に、児童が主体的にあいさつができる取り組みを考えて取り組む。 ◆継続的な指導が重要であるので、地区別集会等、機会を探しながら定期的にあいさつに関する声かけをしていく。 ◆一番身近な大人である教職員が率先して児童や来校者に対して進んであいさつをしていき、見本となる。
	8	共生の教育	◎多様な他者を知り、尊重し、折り合いをつけながら目標に向かって共に学び共に活動できる子どもの育成。 □学校評価の児童アンケート「あなたは、だれとでも仲良く協力して活動していますか。」の問いに対し、90%の児童が肯定的な回答だった。昨年度同様、90%を超える結果となり、目標は達成できた。昨年度は94%だったので、やや下降気味である。質問の「誰とでも」の部分に多文化共生、多種多様な他者理解があるととらえているので、フレンドシップ委員会の活動を中心に全職員の共通理解の下、多言語や多文化にふれる機会をもち、広く周知する活動を続けている成果だと思われる。児童も多言語であいさつする姿が見られるようになり、言葉や食などへの興味関心を多文化共生への入り口と考え、今後も継続していきたい。	◆引き続き、多種多様な児童の背景に迫り、日系人とは何であるのかの理解に努め、他者理解、多文化共生、国際力を身につけた児童の育成に引き続き、努めたい。 ◆1年生～6年生と発達段階に違いがある中で、どのように国際理解などを進め、共生への素地を養っていくのかの活動の模索を引き続き考えたい。 ◆職員会議などにおいて、全職員で児童についての共通理解を図り、指導・支援にあたっていく。また、いろいろな児童が活躍できる機会や場を各学級や委員会活動、行事等で意図的に設けていく。
健やかな体 (命)	9	体力向上	○運動遊びを通して、跳力の運動能力を高め、健やかな心と体で日々生活を送れる子どもの育成。 ◎「やまなしチャンピオン」の取り組みを通して、全校がエイトマンの記録をチャレンジする様子が見られた。また、朝活動や休み時間に、たくさんの児童が外でエイトマンに取り組む様子が見られ、運動遊びに親しむ様子が見られた。 □エイトマンに関して、11月と12月を比較して、前項の平均値が約30回ほど回数が増えている。そこから、児童の運動能力が向上したことが見て取れる。 ■跳力に関しては、1月に再調査を行う。	◆互いに認め合い、自己肯定感を高める取り組みを各学級で実施する。担任は児童の行動を価値付け、全体に広げる。 ◆体育委員会の活動として、体力向上の取り組みを活発化させ、児童の取り組みを増やしていきたい。
	10	食育の推進	○食に対する関心をもち、健康な体作りに努める子どもの育成。 ■一人当たりの残菜量は、目標であった年間平均30g以下には及ばなかった。要因としては暑い時期の食欲の減少や、感染症が流行った時期に残菜量が増えてしまったことが考えられる。しかし、5～7月の残菜量の結果を「一人もう一口チャレンジ！」として提示したことで、もう一口食べようとする意欲は高まった。また、手作り弁当の日や毎月の食育指導で食に関する関心も高めることができたため、引き続き取り組んでいきたい。	◆残菜量の結果を「一人もう一口チャレンジ！」というお便りを作成し、各学級で指導していただいた。それにより意識して一口でも多く食べている児童がいたため、引き続き取り組んでいく。 また、今後は毎月の残菜量を子どもたちに知らせるようにし、食品ロスをなくす視点からも残菜量を減らせるような取り組みを行っていく。 ◆月別の食育指導により、栄養や食べ方についての関心が高まっているため、今後も指導していく。

信頼される学校(信)	11	積極的な情報発信と連携	○保護者や地域に対する積極的な情報発信の実施。 □学校評価の保護者アンケートの「学校は適切な連絡や情報提供を行っているか」の問いに対し、肯定的な回答は98.5%であり、目標の95%を達成することができた。一方で、「教職員は、あなたのお子さんのことをよく理解していると思いますか」の問いに対し、肯定的な回答は93%であり、達成することはできなかったものの、肯定的な意見が多かった。コロナウィルスの影響もあり、養護教諭を始め、各教員が児童の体調の確認や連絡を綿密にとったことや、日ごろから些細な事も保護者に連絡するというのを、心がけて行ってきた成果であると思う。 □「学校の情報を得るためにHPを閲覧したか」の問いに対する肯定的な回答は、日本の保護者向けの回答が75.1%で目標の75%を達成することができたが、外国籍の保護者向けの回答は68.4%と目標達成には及ばなかった。各学年に協力を仰ぎ、月に1回程度は学年のブログを更新するようにしてきた。ブログのページにアクセスできるQRコードをお便りに掲載したり、安心メールにブログのリンク先を貼ったりし、ブログを更新していることを発信してきたものの閲覧は少なかったため、今後は、保護者にブログの更新を伝えられるように努めていきたい。	◆来年度も学校だよりや各クラスの学級通信等を定期的に作成し配布する。 ◆日常的に児童の安全確保や健康管理について、緊急メールや電話により迅速かつ適切な情報の提供を行う。 ◆各種届の様式や学習コンテンツなど保護者や児童が必要とする内容の充実に努める。 ◆各学年のブログの更新について、担当が定期的に確認する。
------------	----	-------------	---	---